

新製品 新技術紹介

繊維へのめっきが拓く可能性 (繊維へのめっき技術特許出願済)

菅沼 延之

名古屋メッキ工業株式会社 代表取締役
〒456 - 0033 愛知県名古屋市熱田区花表町16・11
TEL 052-882-5541 FAX 052-882-5543

めっきを「ブランド」に

「めっき」は、わが国では奈良の大仏をはじめ、古来より使用されてきた技術です。そして今や現代工業には欠かすことのできない表面処理技術の一つでもあります。

名古屋メッキ工業㈱は、昭和22年に創業して以来、既存の概念にとらわれない、めっき技術の革新をめざしてまいりました。

従来めっきは、委託加工業としての典型的な業種であり、お客様からの要求の通りにめっき処理をほどこし、委託された品物をお返しすることだけにとどまっていました。そうしたなか、私どもでは、お客様のご希望されるめっきに対して、そこに高品位な技術をもつてのぞみ、付加価値をつけためっき処理技術を独自の「ブランド」として確立できる、つまり「めっき」が委託加工業からメーカーに転進できる可能性を追求してまいりました。

そして、現在では、各種金属はもとより、難素材といわれる金属、そして電気を流さないセラミックや繊維、芸術性の要求される工芸品など、あらゆる分野で使用される素材に、確実にめっきをほどこし、ユーザー皆様のご満足にお応えしています。

繊維にもめっきができます

金属以外のものにめっき（あるいは表面をコーティング）する方法では、従来「スパッタリング」などの物理蒸着が使用されてきました。しかし、私たちは「繊維は電気を流さないが、無電解めっきにより、繊維表面に金属を析出させ、下地との間に十分な密着を与えること（つまり、めっき）ができる」と本来のめっきで勝負してみようと考えたのです。

ただし、めっき処理に必要なめっき液は、従来のもものでは役に立たず、様々なケミカル・ピーカーテストを繰り返し、やっと、金属めっきがあっても繊維独自のしなやかさが失われない自家製めっき液が完成しました。

また、繊維をめっきするための装置は、当社直系の設備会社 Kan-U（關羽）の製作による、知恵をしぼった、まさに中国製めっき設備の真骨頂です。めっき前後の処理などを解決すれば、繊維と



金属の組み合わせは自由にできる、「汎用繊維めっき装置」として完成しました。

新たな可能性をめざして

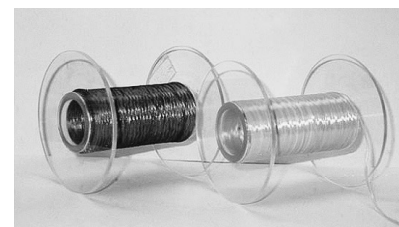
私たちのめざしている金属と繊維との融合は、アパレル業界や工業材料の世界にも新しい切り口を投げかけています。

特に「銀めっき繊維」については、「文明が進むと増える」といわれる各種電磁波からの防御、また医療や福祉の現場に携わる人々だけでなく、一般家庭でも意識されている抗菌性グッズの使用など、この新素材が活躍する場には大きな可能性があります。

また、金銀の華やかな素材はデザイナーたちの目にはどのように映るのでしょうか。



各種金属でめっきされた繊維



「素材を選ばないめっき技術」これこそ名古屋メッキが一貫してお届けしているサービスです。

「めっきができないのは水と空気だけ…」名古屋メッキはめっきでものつくりの未来を拓きます。